

○地球温暖化とは？

地球温暖化とは、人間が社会経済活動の中で化石燃料を使うことで大量に放出される、二酸化炭素などの温室効果ガスが地球を過度に暖める現象です。

地球温暖化が進むと、気温の上昇、豪雨の頻度の増加といった気候変動、それに伴う農作物の品質低下、熱中症や感染症リスクの増加などが発生します。

これらは、世界的な問題だけでなく、私たちの住む住田町でも既に起きています。

地球温暖化や気候変動の対策には、「緩和」と「適応」の2つにバランスよく取り組むことが大切です。

緩和とは？

原因を少なく

緩和策の例

- 節電・省エネ
- エコカーの普及
- 再生可能エネルギーの活用
- 森林を増やす
- 温室効果ガスを減らす

適応とは？

影響に備える

適応策の例

- 感染症予防のため虫刺されに注意
- 熱中症予防
- 災害に備える
- 高温でも育つ農作物の品種開発や栽培
- 水利用の工夫

2つの気候変動対策

気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること（緩和）が重要です。

緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと（適応）が重要です。

○住田町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

本計画の概要は以下のとおりです。

国や岩手県では、温室効果ガスの排出削減目標を設定して地球温暖化や気候変動の対策に取り組んでいます。

本計画では、本町全域から排出される温室効果ガスのうち、二酸化炭素を対象に、削減目標や目標達成に向けた取組を設定し、町内（住民、事業者、行政）だけでなく、国や岩手県とも連携して対策を進めていきます。

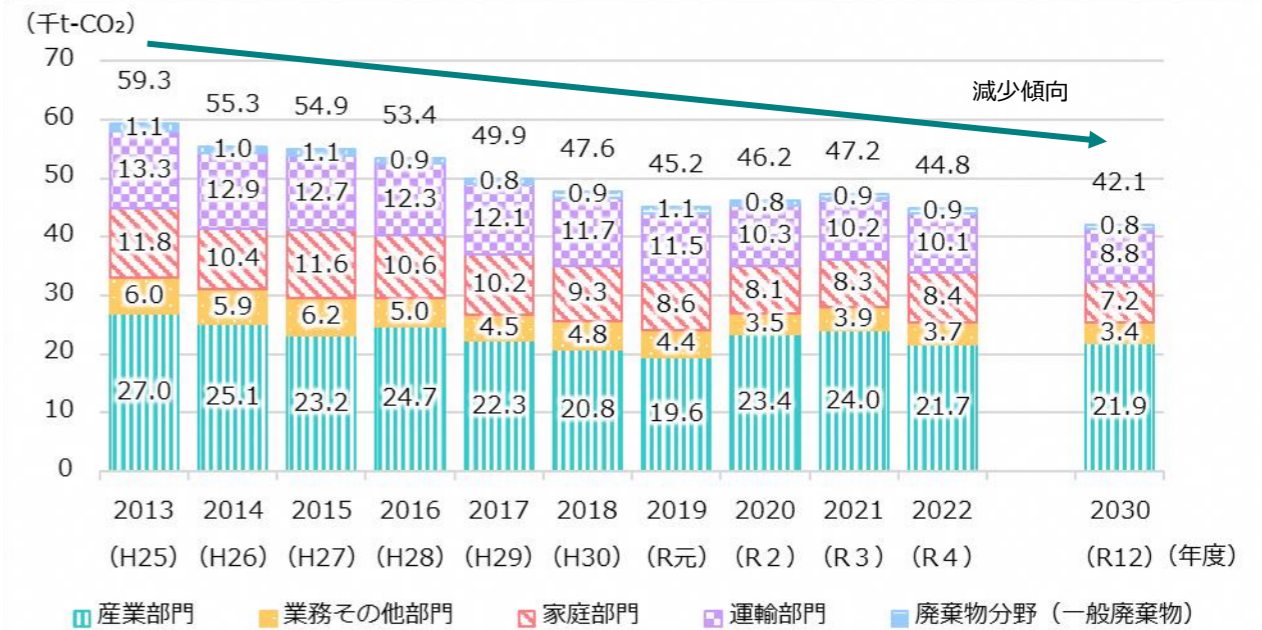
位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化対策推進法第21条第4項に基づく地方公共団体実行計画（区域施策編） 気候変動適応法第12条に基づく地域気候変動適応計画 		
計画期間	2026（令和8）年度から2030（令和12）年度までの5年間		
基準年度	2013（平成25）年度	目標年度	2030（令和12）年度

○住田町の二酸化炭素排出量等の現況、将来推計

◆ 住田町の二酸化炭素排出量

環境省が公表している「自治体排出量カルテ」によると、本町の現況の二酸化炭素排出量は減少傾向にあります。

また、今後、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入等の追加的な対策を講じなかった場合の二酸化炭素排出量も、将来的には人口減少等により減少する予測となっています。



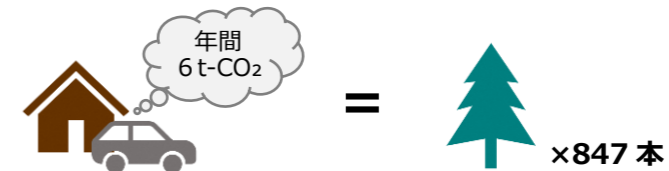
※2030（令和12年度）の二酸化炭素排出量は、総合計画で公開されている将来の人口目標等を基に推計しました。

ポイント

家庭から出る二酸化炭素はどれくらい？

私たちの生活や自家用車から1年間に排出される二酸化炭素の合計は、13千t-CO₂です。1世帯あたりに換算すると、6t-CO₂になります。

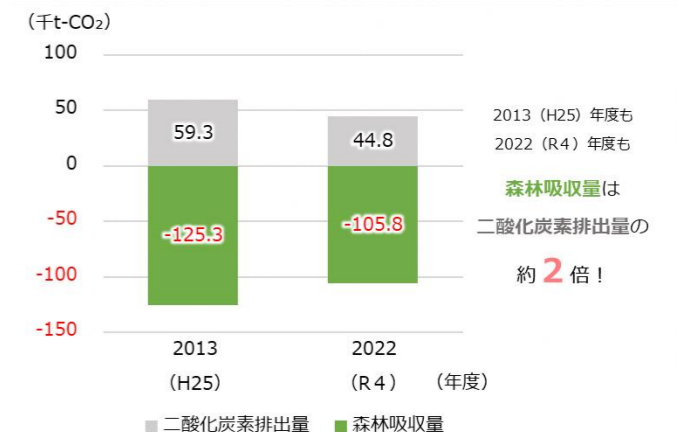
これは、本町のスギ847本が1年間に吸収する二酸化炭素の量に相当します。



◆ 住田町の森林による二酸化炭素吸収量

本町の森林による二酸化炭素吸収量は、2013（平成25）年度が125.3千t-CO₂、2022（令和4）年度が105.8千t-CO₂となっています。同年度の二酸化炭素排出量と比較すると、約2倍となっています。

森林が二酸化炭素を吸収する力は樹種や林齢によって異なり、針葉樹や林齢の若い森林の方が吸収量は多いため、再造林などの森林整備が重要となります。



○住田町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）で目指す目標

◆ 地域の目指す将来像



◆ 二酸化炭素排出削減目標

本町では、既に森林が吸収する二酸化炭素量が排出量を上回るマイナスカーボンの状態となっています。今後も豊富な森林吸収量の確保、省エネルギーや再生可能エネルギー等の取組の加速化により、マイナスカーボンの状態を維持することで、国や岩手県の削減目標達成に貢献します。

2013（平成25）年度の二酸化炭素排出量 59.3千t-CO₂

本計画の目標

○2030（令和12）年度 二酸化炭素排出削減量目標

2013（平成25）年度比 $\Delta 22.0$ 千t-CO₂（削減率※： $\Delta 37.1\%$ ）

- <内訳>
- ① 現状すう勢ケースによる削減 $\Delta 17.2$ 千t-CO₂
 - ② 国等と連携した省エネルギー対策による削減 $\Delta 3.3$ 千t-CO₂
 - ③ 再生可能エネルギーの導入による削減 $\Delta 1.5$ 千t-CO₂

○2030（令和12）年度 二酸化炭素実質排出量（二酸化炭素排出量－森林吸収量）

マイナスカーボンの達成

二酸化炭素排出量（37.3千t-CO₂） < 森林吸収量（95.2千t-CO₂）

※（2013（平成25）年度比削減量÷2013（平成25）年度の二酸化炭素排出量）×100

○目標達成に向けて取り組んでみよう！

二酸化炭素排出量を減らしたり、気候変動による影響に適応したりして地域の目指す将来像を達成し、本町でのより良い暮らしを実現するためには、住民の皆さんの協力が不可欠です。

ご家庭で取り組める行動の例を紹介し、あなたができる行動に取り組んでみましょう。

施策Ⅰ 省エネルギーの推進
<input type="checkbox"/> 使っていない家電や照明のスイッチをこまめに切る
<input type="checkbox"/> 服装による調節を心がけて、部屋の室温を見直す（目安：夏は約28℃、冬は約20℃）
<input type="checkbox"/> 蛇口やシャワーから水を出しっぱなしにしないなど、工夫して水を使う
<input type="checkbox"/> LED照明や省エネルギー型の家電の選択に努める
施策Ⅱ 森林の適切な管理、保全
<input type="checkbox"/> 山菜やきのこ採りをするときは、ごみを持ち帰るなどのマナーを守る
<input type="checkbox"/> 下刈、枝打ち、除間伐などを励行し、計画的な森林管理に努める
施策Ⅲ 脱炭素なまちづくり
<input type="checkbox"/> マイバッグの利用、ごみの分別などによりプラスチック等のごみを削減する
<input type="checkbox"/> 適量のご飯を残さず食べる
<input type="checkbox"/> エコドライブを実践する
<input type="checkbox"/> エコカー（ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、電気自動車など）の購入・利用を検討する
<input type="checkbox"/> 暑さを避ける、こまめな水分補給などの熱中症対策をする（気候変動適応）
<input type="checkbox"/> 感染症を媒介する蚊に刺されない、蚊を発生させない対策をする（気候変動適応）
<input type="checkbox"/> ハザードマップの確認、食料や水の備蓄など、豪雨・洪水・土砂災害などへ備える（気候変動適応）
施策Ⅳ 地域資源の活用
<input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー由来の電力を使用したプランの選択に努める
<input type="checkbox"/> 町の特性や家庭の状況に適した再生可能エネルギーの導入に努める
<input type="checkbox"/> 農地の適正な維持管理に努める
<input type="checkbox"/> できるだけ地産（岩手県産等）の食材等を選ぶ
施策Ⅴ 環境意識の啓発
<input type="checkbox"/> 環境や地球温暖化対策に関する情報を収集・発信する
<input type="checkbox"/> 事業者や行政が実施する環境保全事業や地球温暖化対策に協力する

ポイント

省エネルギー製品を選ぶときはここに注目！

家電等には、省エネルギー性能が分かりやすく表示されているものがあります。製品選びの参考にしてみてください。

省エネ性能 4.2 (多段階評価点)

省エネ基準達成率 112% (省エネルギーラベル)

年間消費電力量 249 kWh/年

年間目安エネルギー料金 6,720 円

ポイント

エコドライブとは？

例えば、こんな行動がエコドライブにあたります。

- タイヤの空気圧の点検・整備
- 不要な荷物はおろす
- エアコンの使用は適切に
- 加速、減速は緩やかに
- 車間距離はゆとりをもつ
- 無駄なアイドリングはしない
- 渋滞を避け、余裕をもって出発
- 走行の妨げとなる駐車はしない
- 自分の車の燃費を把握する